

【庁議結果_HP版】

区 分	内 容
会 議 名	令和元年度 第11回庁議
日 時	令和元年8月27日（火）午前9時00分から午前9時30分まで
場 所	庁議室
件 名	<p>【報告事項】</p> <p>(1) 都市魅力アップ共創（民間協働）推進事業の実施について （政策部）</p> <p>(2) 前橋版M a a S環境構築（スマートモビリティ）に向けた協力 について （政策部）</p>
<p>【報告事項】</p> <p>(1) 都市魅力アップ共創（民間協働）推進事業の実施について（政策部） 後日、担当課から公表予定</p> <p>(2) 前橋版M a a S環境構築（スマートモビリティ）に向けた協力について（政策部） 《政策部長》 前橋版M a a S環境の構築及びスマートモビリティチャレンジについて説明する。 本市では、持続可能な公共交通ネットワークの再構築を目指し、前橋市地域公共交通網形成計画の策定や自動運転バス、AIを活用した地域交通網の最適化の実証実験に取り組んできた。そうした取り組みを進める中で、この度、経済産業省及び国土交通省の連携プロジェクトであるスマートモビリティチャレンジの採択を受け、M a a S（Mobility as a Service）環境の構築を目指すこととなった。 まず、スマートモビリティチャレンジとは、新たなモビリティサービスの社会実装を通じた移動課題の解決及び地域活性化を目指し、地域と企業の協働による意欲的な挑戦を促す新プロジェクトのことである。経済産業省からは、事業計画策定や効果分析等に対する支援が、国土交通省からは、M a a S等新たなモビリティサービスの実証実験に対し支援が行われる。なお、両省から支援を受けて取り組む地域は、全国でも4地域のみである。 次に、MaaS とは、出発地から目的地まで、スマートフォンのアプリ等で、利用者にとっての最適経路を提示するとともに、複数の交通手段やその他のサービスを含め、一括して提供するサービスと言われている。そのため、MaaS の環境を構築することは、単なる移動手段の利便性の向上に留まらず、移動に関連する多くの分野に、その効果を波及させることが期待でき、本市が進める交通再編計画の有効化、更には、様々な政策の推進に繋がるものと考えられる。また、付加価値の創出例として、ビッグデータ活用、商業、観光、医療サービスなどとの連携の可能性も有している。 プロジェクトは原則、民間が主体となって進めていくこととなる。実証実験は下半期から段階的に実施をしていく予定であり、実施事業の詳細については、内容が整い次第、改めてご報告する予定である。 M a a Sは、様々な分野と連携を図っていくことで、相乗効果を得ていく取り組みとなるので、事業の進捗状況に応じ、様々な協力を依頼させていただくことが想定される。</p>	

関連する部局におかれては、ご理解とご協力をいただくよう、よろしくお願い申し上げます。

【質疑等】

(2) 前橋版MaaS環境構築（スマートモビリティチャレンジ）に向けた協力について（政策部）

《副市長》

11月中旬から2月までが実証実験の期間となっているが、次年度まで延びるということではなく、年度内で終了するのか。

《政策部長》

年度内の予定である。

《総務部長》

地域交通網の再編を進める中で、スマートモビリティチャレンジやMaaSはどのような位置付けか。今のものを見直し、更に変えていくということか。

《政策部長》

昨年度作成した地域公共交通網形成計画の中にMaaSはまだ位置付けられていない。実証実験等を進めていく中で、昨年度作成した地域公共交通網形成計画を少し手直しする作業が出てくる。

《総務部長》

MaaSの主体は本市か、それとも民間か。決済システムがあるということは、どこかで乗り換えて何かのサービスを受けるときに、スマートフォン等を使ってお金の決済をするのだと思うが、どこが運営するのか。

《政策部長》

実際の実証実験の主体は本市であるが、実証実験を行うにあたり、アプリの開発等は民間が主体となって行う。

《総務部長》

前橋版というのは、一般的に行われているMaaSとは違うという意味か。

《政策部長》

一般的に言われているものを目指して行うわけだが、MaaSで一般的に言われているのは、交通機関で移動した先の宿泊施設の予約等も想定したものであること。交通機関の予約決済、その先の宿泊施設や観光施設の一括予約・決済を想定している。本市の場合はそこまでではなく、地域内での実証実験である。交通機関の検索・予約、ゆくゆくは決済、行った先の文化施設や商業施設、飲食を含めた一括予約・決済を目指して実証実験を行う。

《総務部長》

あまり独自のものを作りすぎると、ほかとの連携が上手くできないなどの問題が出てくる。これはソフト事業だからそうでもないが、汎用性のあるものを使った方が効率的にできることがある。意味合いからすると、地域を限定しているので「前橋版」という言い方になるのか。

《政策部長》

本市の市民が移動しやすい環境を目指しているということで「前橋版」である。

《市長》

国内で MaaS をきちんとやっているところはない。国からの補助を受けて、本市が全国モデルのプロトタイプを作っていくということで始めている。本市でやってみて、そこから伊勢崎市、高崎市、渋川市と広げていくべきだと思うし、それが第一歩という捉え方で良いと思っているので、みんなで頑張っていきたい。

例えば私が共愛学園に通っているとすると、この MaaS によって、大手町のバス停から JR 前橋駅を使って駒形駅へ行き、その後は徒歩、と見えるわけである。ところが、渋川市在住の子が市立前橋高校に通っている場合はどうなのか。せっかく MaaS の実験をするのならば、市立前橋高校の生徒にも実験に参加していただけたらどうか。そのことも含めて研究していただきたい。その子の動きは、おそらく MaaS 上では、渋川駅から新前橋駅で乗り換えて前橋駅まで行き、前橋駅からは北代田行きのバスに乗るように出るのはずである。しかし、もし群馬総社駅からのシャトルバスがあるならば、群馬総社駅で降りてそのシャトルバスに乗るように指示が出るかもしれない。今まで私たちは、群馬総社駅から市立前橋高校に通う子供の人数が確定できなかったからシャトルバスを出せなかったわけで、今日は8人が上越線に乗ることが確定すれば、8人乗りのシャトルバスを手配してあげられるかもしれない。MaaS によって移動者も便利になるし、移動者を確定することによって交通事業を提供する側もそれに見合ったロットのバスを配置できるとか、8人の子供が群馬総社駅で降りるというデマンドが確定するということが、この MaaS の魅力的な部分であると思う。

《建設部長》

MaaS を使う実験に参加するには、スマートフォンがないとできないのか。

《政策部長》

そうである。

《総務部長》

以前、テレビで観たことがあるのが、例えば、駅からの移動手段がないところ、タクシーもあまりないところで事前に予約をしておくとかタクシーがいてくれる。確か北海道のどこかの町の話だったと思う。あらかじめ全て予約してセットしておけば、何の手間もいらずに自分で決めた時間どおりに行動ができる。観光で使えそうだ。

《政策部長》

観光産業では非常に有効である。

《建設部長》

使う人のメリットはどのようなものか。

《政策部長》

MaaS を使う人が、移動手段や目的地を一括で検索して決済をすると、ゆくゆくは割引料金が適用されるという話である。交通機関を乗り継ぐときに、その都度支払うよりも割引になる。交通機関だけではなくて、行った先の文化施設や商業施設の利用予約・決済までを目指している。

《市長》

例えば、MaaS でフラワーパークへ行くと入場料50円引になるとか、MaaS でどこかへ行くとおまけが付くということである。また、本市のバス路線をまったく知らない人が来たときの利便性向上もMaaSの機能である。

《政策部長》

実証実験を開始する際には、関係各課にご協力をいただく場面が出てくると思うので、よろしくお願ひしたい。

《市長》

先ほど総務部長が言っていた、地域公共交通網形成計画とはどのようにして整合をとるのかということだが、そのとおりである。地域公共交通網形成計画にはMaaS自体の定義を入れていない。自宅からMaaSを利かせるためには、自宅に来るものがないとできない。例えば、芳賀地区からどこかへ行くには、自宅から幹線交通に乗り込むまでの間に、デマンド型の交通手段としてMaaSのパートが入ってくる必要がある。そうでないと、バス停まで歩けない人はMaaSが使えないことになる。そういう関係でラストワンマイルの整備もMaaSで勝負しているわけである。MaaSの力によって、地域公共交通網形成計画が、段々とドア to 目的地に近づいているということだと思う。

群馬県知事も色々積極的に取り組んでくれそうなので、県にも実証実験に参加していただけたらどうか。

《政策部長》

今回は前橋市を舞台にということで本市が指定を受けて行うが、もっと広域的なことについては県とも随時情報交換をしている。

(3) その他

《市長》

まだまだ災害が発生し得る時期で、台風の被害があるかもしれないので、また力をひとつにして頑張っていきたいと思っている。

《副市長》

9月議会がもうすぐであるが、遺漏のないように対応をお願いしたい。

《教育長》

市内の学校は今日から2学期が始まる。登下校では、2学期最初の日から地域の人や警察が協力をしてくれており、嬉しく感じている。

中体連の全国大会で春日中の生徒が、棒高跳びで全国1位になった。試合ではすごい競り合いがあり、4m20cmを飛べた人はたくさんいたが、最後は2人だけが残って4m30cmをクリアした。4m35cmをもうひとりの島根県の子がクリアして、春日中の生徒は1回目、2回目がダメで、チャンスが残り1回しかないというときに、ここで4m35cmをクリアしても優勝はないので4m40cmに挑戦するという決断をした。まさに1回勝負で、見事クリアして1位になった。精神力がすごいと思ったし、そういう嬉しいドラマがあったので報告しておく。

以 上

* 今後の庁議開催予定

開 催 日	開催時間	場 所
9月 9日 (火)	午後2時30分	庁議室
9月24日 (火)	午前9時00分	庁議室
10月 8日 (火)	午前9時00分	庁議室

8月の定例記者会見は30日(金)午後2時00分から開催します。

9月の定例記者会見は12日(木)午後1時30分から

24日(火)午後2時00分から開催します。